

<p>教育学・心理学</p>	<p>【代表的な研究テーマ】</p> <p>□ 留学生に必要なことばの学び</p> <p>□ 多文化社会とビリーフ変容</p>
<p>key word</p>	<p>課題解決に役立つシーズの説明</p>
<ul style="list-style-type: none"> ■ 留学生 ■ 学習者ビリーフ ■ 動機づけ・意欲 ■ 文化・社会 ■ ことばの学び 	<p>■ 日本で生きる外国人と多文化社会－わたしたちにできることは？</p> <p>2008年に文部科学省はグローバル戦略の一環として、2020年までに日本国内の留学生を30万人に増やすという「留学生30万人計画」を打ち出しました。これは、留学生に対して日本の大学への入り口と卒業後の社会の受け入れ態勢を改善する政策を実施して、日本社会のグローバル化を目指すというものです。このような背景もあり、海外からの留学生は年々増加しています。また、2019年からの「改正出入国管理法」の成立によって、外国人労働者の受入れ拡大が将来的に見込まれています。このように社会的背景の変化に伴う国内のグローバル化が加速する中、わたしたちは「外国籍の人」や「外国にルーツを持つ人」と接し、時間を共有する機会が今後さらに増えるでしょう。では、そのような人たちと接する上で、「文化」「社会」「ことば」というものをわたしたちはどのように捉えたらよいのでしょうか。</p> <p>わたしの研究の関心は、日本で暮らす外国人、特に留学生たちが日本の生活や学びの中でどのようなことを感じ、どのような時に困難を覚え、そして、それらをどのように克服していくのか、また、彼らが必要とする日本語力とは具体的にどのようなものか、という課題について検討することです。研究は以下の二つの視点から進めています。</p>
	
<p>滝井 未来 Miki Takii</p>	<p>①ビリーフ変容という現象をどのように捉えるべきか</p> <p>言語学習におけるビリーフとは、「信念」を意味し、生まれ育った社会的・文化的・教育的環境の影響を受け形成され、学習行動を決定する上で重要な役割を果たすものであると言われています。では、ビリーフが形成される上で重要とされる「文化」や「社会」はどのようなものでしょうか。国により違いが明確なものでしょうか。それとも、個人によって異なるものでしょうか。このような問いを踏まえ、日本という新たな環境におけるビリーフ変容についてライフストーリー研究など質的研究を手法として研究を進めています。</p>
<p>国際交流機構 准教授</p>	
<p>【プロフィール】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●専門分野 <ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育学 ・第二言語習得研究 ●略歴 <ul style="list-style-type: none"> <学歴> <ul style="list-style-type: none"> ・2017年 京都外国語大学大学院 外国語学研究科博士後期課程 修了 博士(言語文化学) <職歴> <ul style="list-style-type: none"> ・2004年 タイ国立マヒドン大学・同付属 高校 専任講師 ・2010年 大阪大学国際教育交流センター 非常勤講師 ・2014年 関西国際大学 非常勤講師 ・2017～2019年 関西国際大学グローバルコミュニケーション 研究所客員研究員 ・2019年 滋賀大学教育学系(国際交流 機構)講師 	<p>②留学生に必要な第二言語教育とは</p> <p>わたしたちは誰も英語をはじめとする外国語、いわゆる第二言語を学んだ経験があります。では、その経験を振り返ると何が一番大切だったと考えるのでしょうか。学習初期の段階では、言語の体系を学び、文法学習を中心に勉強したと思います。しかし、果たして、それらが「使えることば」として、わたしたちの身についたのか。わたしは、語学を学ぶ上で当たり前とも考えられがちな文法知識蓄積を柱とした「学習ビリーフ」に対して、留学生たちにとって真に必要な「ことばの学び」とはいかなるものかということについて研究を行っています。</p> <p>□上記課題についての主な研究成果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滝井未来『留学生のことばの学びとビリーフ変容』ココ出版、2021年(刊行予定) ・滝井未来「学習者の語りを通じて見る学習意欲とビリーフ変容－タイ人学習者を取り巻く社会との関わりから－」『日本語プロフィシエンシー研究』第4号、2016年、pp.21-40 ・滝井未来「タイ人学習者ビリーフにおける学習意欲の変化のプロセス」『京都外国語大学大学院紀要 言語と文化』第8号、2014年、pp.1-18 ・滝井未来・小原俊彦「学習者はどのような言語心理過程を経て言語活動に従事しているのか－自己表現活動中心の日本語学習の場合－」『大阪大学国際教育交流センター研究論集 多文化社会と留学生交流』第18号、2014年、pp.87-98
<p>【主な社会的活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育学会 ・言語文化教育研究会 	<p>企業・自治体へのメッセージ</p>
<p>【連絡先】 m-takii@edu.shiga-u.ac.jp</p>	<p>企業に就職した留学生が日本社会の中でどのように生きているのか。また、留学生たちを受け入れた企業側はどのような点において難しさを感じているのか。今後は、これらの分野についても研究を広げていきたいと考えております。</p>